## 郷土の川を見つめる人々　福井県立金津高校　カヌー部

流れる水音を聞き、しぶきを肌で感じながら、最も水面に近い場所を気持ちよく滑る選手達がいます。竹田川で練習に励む、金津高校カヌー部の部員たちです。

金津高校カヌー部は、平成21年度日本カヌーポロジュニア選手権大会優勝等、数々の栄光に輝き、多くのトップ選手を輩出してきました。現在行っている種目は、パドルなどを使って互いのゴールにボールを入れ合うカヌーポロと、直線のタイムを競うレーシングという競技です。旧芦原町は、カヌーを町技として選定しており、小学生の頃からカヌーに親しんできた部員たちが多いという事が強みになっています。

「息の合ったプレーが出来たと感じた時が一番うれしいですね。川での練習は、浅い場所もあり、舟が乗り上げたり、パドルが下に刺さったりしてしまう事もありますが、水の冷たさや季節を実感できる瞬間があります」とカヌー部部長。

今年も前年度に引き続き日本カヌーポロジュニア選手権大会優勝を目指し、一丸となって闘士を燃やす部員たち、奥深いカヌーの魅力を感じている様子でした。

「現在女子も活躍中ですが、まだ人数が少ないのでどんどん女の子にも入ってきてもらいたい」と話す部員達。カヌーを通して温かな友情が育まれています。

## 川あらカルト！　越美北線（九頭竜線）の旅

山の木々が緑鮮やかになり、川を流れる水もみずみずしく感じる新緑の春。越美北線に乗って車窓から川や自然の輝きを感じてみませんか？

杉林の向こうに見え隠れしながら、ある時は列車を横切り、ある時は列車と寄り添うように流れる川。普段とは違う視線で川に出会えます。ゴトゴトと揺れながら、のんびりと川や自然を眺めていると、時間の流れもゆっくり感じます。「ポーッ」と響く汽笛の音も心を楽しませます。福井から九頭竜湖まで片道1時間30分（乗る時間によって前後します）のローカル線の旅。自然再発見とともに、気持ちのリフレッシュにもなりますよ。

## クイズ答え？

**① 灌漑（かんがい）用水路**
川があるのになぜ用水路？実は山の向こうから（写真の奥側）この付近の水田に水を取り入れるための水路。農業のための水が不足してしまわないように、水利権のための重要なものです。

**② 頭首工（とうしゅこう）**
農業用水を取り入れるために作られた施設で、建物の内部は川の中にあるゲートをワイヤで巻き上げる電動機械が収納されています。

**③ 上下水道のパイプ**
橋に沿わせてあるのは、川の下に管を埋めるより維持管理がしやすいためです。太いほうが下水道で、高低差で自然に流れるようになっています。細い方の上水道は圧力がかかって流れる仕組み。

**④ 河川管理用タラップ**
河川内のゴミ拾いや除草など、河川管理のために設置しています。時には誤って川に落ちた人が自力で脱出するため、あるいは救助されるためにも使用します。橋の高欄には救助用浮輪もあります。

［編集］　谷川みどり・川村陽子・坂口よし子

編集・お問い合わせ先　NPO法人 ドラゴンリバー交流会
〒918-8031　福井市種池2丁目305（福井市治水記念館内）TEL&FAX　0776-33-1850
http://www.doragon.or.jp　Email:info@doragon.or.jp

発行 福井県

本誌掲載記事などは、自主取材のほか、原著作権者の許諾を得て掲載しております。いずれも無断転載はできません。

本誌は、古紙配合の再生紙を使用しています。



# かわらばん ふくい

第3号
2010.3 発行

## 安全なくらしのために
### ～河川改修 荒川・江端川～

写真　荒川水門

［撮影：長 賢治　福井市在住のネイチャーフォトグラファー］

## めざせ！KAWA博士!!

普段、なにげなく通り過ぎてしまう川ですが、よくよく見ると…これは一体何だろう？がいっぱい。今回、編集部が見つけた「何だろう」あなたはいくつ分かるかな？

**① 人が渡れないパイプの橋?!**

（足羽川　福井市西天田町）

**② 川の上に家?!**

（足羽川　福井市一乗地区）

**③ 橋に沿ってあるパイプは何だ?!**

（足羽川　福井市蔵作町）

**④ 黄色にオレンジ、なんのハシゴだ…?!**

（江端川　福井市江端町）

福井市中心部を流れる荒川と、福井市南部を流れる江端川は、ともに一級河川であり、水害に見舞われた歴史をもつ川です。
今回は、流域住民の方の安全な生活確保を目的に取り組んできた、荒川と江端川の河川事業についてご紹介します。

# 荒川

荒川は、吉野岳を源流に、福井市街地を貫き、足羽川に合流する川です。荒川の流域は昔から度重なる洪水の被害を受け、そのたび様々な治水への取り組みが繰り返されてきましたが、昭和35年から流域全体を捉えた総合的な河川改修（延長約10.6km）に取り組んでいます。それでは、現在工事中の遊水地事業についてご紹介します。

## 遊水地ってどんな場所？

遊水地とは、洪水で川が氾濫しないように、一時的に水を貯めておく場所のことです。
近年、市街地の拡大により、同じような働きをする田んぼが減少し、川へ流れ込む水の量を調整する機能が少なくなってきました。
福井市街地を貫いている荒川は、川幅を拡げたり、川底を掘り下げたりする工事に多大な時間とコストがかかることから、洪水対策として、上流域に遊水地が誕生しました。

## 遊水地のしくみ

県内でもめずらしい大規模な遊水地。その仕組みがどうなっているか、のぞいてみよう！

### 排水路

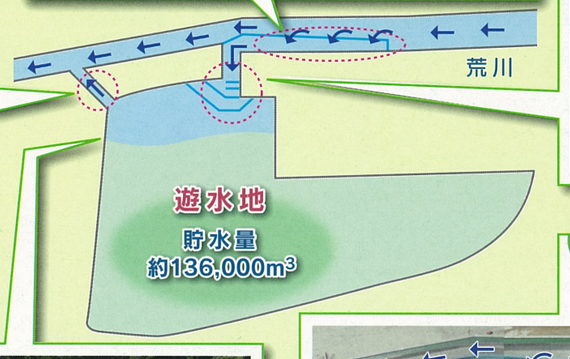
遊水地に貯まった水は、荒川の水位が低くなると、自然にこの排水路から川に戻っていきます。

### 越流堤（えつりゅうてい）

堤防の一部を低くしたつくりになっていて、一定の水位以上になると、水が堤防を越えて遊水地に流れ込む仕組みになっています。

### 減勢部（げんせいぶ）

水の勢いをおさえて、ここからスムーズに遊水地に入ってきます。




### 遊水地全体図

学校の25mプールで約380杯分の量の水を貯めることができます。

### 遊水地模型実験

15分の１サイズの模型を使い、何度も実験を繰り返し、遊水地が実際に機能するか確かめています。

## 遊水地の未来

現在の荒川遊水地では、ガマ等の植物を保全し、生きものが生息しやすい環境になるよう配慮しています。鳥たちの絶好の餌場となっており、これまでに18科26種類の野鳥（上空飛来も含む）が確認されました。最近みかけなくなった植物も確認されました。

生きものの観察など、これからの遊水地のあり方については、地域の方々の意見も交えながら検討していきたいと考えています。

## 遊水地見学会

将来就いてみたい職業を考える校外研修として、福井工業高等専門学校・環境都市工学科２年生41名が、昨年11月12日に遊水地を訪れました。見学を終えた学生たちは何を学びどんな未来予想図を描いたのでしょうか。

説明してくれた加藤さんのようになりたいと思った。（平野潤一さん）

土木の現場では少しのミスも許されない。地域に住む人たちに及ぼす影響や規模の大きさに驚いた。（中車恭明さん）

僕たちの生活の安全がどういう形で守られているのかを再確認した。（小川瑞貴さん）

自然や環境を配慮した事業の必要性を感じ、環境と都市は一致していることを学んだ。（福尾尚也さん）

河川や土木の果たす役割について学んだ彼らが、将来どんな仕事に従事するのかが楽しみです。

# 江端川

江端川は福井市南部を流れ日野川に合流する川です。度重なる浸水の被害を受け、昭和52年から下流部より河川改修（延長約5.7km）に取り組んでいます。それでは近年の工事内容と試験的に実施している「水田貯留」についてご紹介します。

## 河川改修

平成19年から着手してきた江端町南部の護岸工事（延長約350m）が、平成21年8月に完成しました。住宅地内を流れる河川の改修ということで、工事で発生する騒音や振動の抑制、安全な生活の確保など、近隣住民の方に配慮し、右記のとおり工事を進めました。江端川の改修は住宅地での工事が概ね完成し、今後は上流の田園地の工事へと移行していきます。

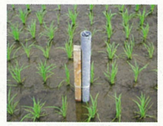
### 配慮してます！

①工事用道路は川沿いに限定
②工事用道路の出入り口には交通誘導員を配備
③工事用車両のスピードは時速２０キロ以下
④施工時間は平日の午前８時から午後６時まで

## 水田貯留

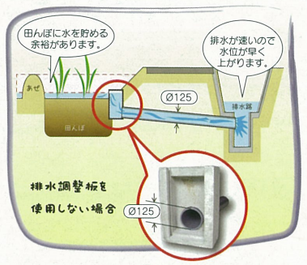
江端川流域の浸水被害を軽減するための対策の一環として、田んぼを活用した実証実験を実施しました。降雨時に雨水を一時的に貯留することができる田んぼの機能に着目し、田んぼに溜った雨水をゆっくり排水させるための排水調整装置を設置して、水田貯留機能を増進させることを目的としています。実験は水田耕作者にご協力をいただき、江端川上流域で行いました。

実験の結果、装置を設置した田んぼでは、排水量が半分程度に低減されることがわかり、今後は、この装置の実用化に向けて取り組んでいきます。

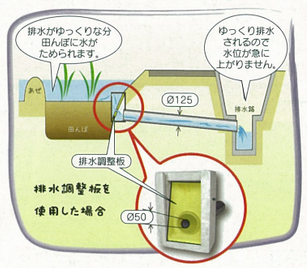


水位観測計

通常の田んぼ




排水調整装置を設置した田んぼ

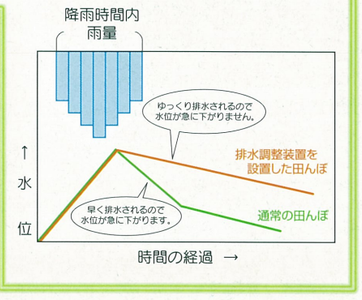



## 江端川トピック

### 排水ポンプ

日野川の水位が上昇すると江端川へ逆流してしまうため、逆水防止門扉が大正10年に竣工しました。しかし、その後も洪水に見舞われ、地域住民の不安は解消されませんでした。そこで機械揚水ポンプの設置計画が持ち上がり、昭和9年起工、昭和12年に完成。この排水ポンプの規模は、当時東洋一と称されました。老朽化とともに、更に強力な排水ポンプを設備することになり、平成2年に役割を終えました。一基は保存されることになり、現在、福井市治水記念館にて、その雄姿を見ることができます。

半世紀以上も治水を守り、歴史の分だけエピソードがあります。治水記念館では、さらに詳しい説明を聞くことができます。




## 荒川トピックス

### 歴史

荒川は度重なる洪水にも関わらず、流域の人々にとって古来から重要な生活の綱でした。生活、灌漑（かんがい）用水としてはもちろん、早くから船運としても利用されており、食料や茶、綿などの産物を足羽川経由で三国へ運ばれていました。沿川にはいくつもの船の発着所が設けられ、物資の積み下ろしが盛んに行われていたようです。また、結城秀康が北庄（きたのしょう）城の改造を行った際、天守を移すと共に荒川を付け替えて堀の改造を行ったという記録も残っています。荒川の外側の一部には足軽などが居住し、防御の一端を担っていた寺町が城下東南部の荒川のほとりにも形成されていたそうです。太平洋戦争の頃には、旭小学校などの児童の短艇訓練の場にもなりました。荒川は、時代を色濃く反映し、人の歴史を見つめてきた川だったのですね。

### ほたる

荒川の上流に位置する永平寺町松岡吉野地区では、ほたるを守る活動が続けられています。ゴミ捨て禁止の呼び掛けや観察会、ほたる発光時期の観察者の安全も含めた夜間パトロールが主な活動内容です。2002年、旧松岡町時代に制定された「ほたるの里づくり条例」は、永平寺町と合併した後もそのまま活かされました。河川工事の際にもこうした住民の意思を尊重していきたいと思います。

### ビオトープ

荒川の間山町付近にあるビオトープは、「水辺の自然を再生し保護する」「水辺の自然をもっと豊かにする」「人にやさしい川づくりを行う」をコンセプトに、既存の樹木を保全したり、木工沈床や捨石工など生きものが棲みやすい工法を用いています。年に数回のモニタリング調査も職員で実施し、自然の多様性を学びながら、自然環境の移り変わりを追跡調査し、工事の検証を行っています。また、現場見学や生きもの調査など、学校教育の場としても活かされています。